

学校における道徳教育について

1 道徳教育の推進について

< 道徳教育の課題 >

家庭や地域の教育機能の低下
社会全体のモラルの低下
社会体験、自然体験の不足 など

< 道徳教育の推進 >

道徳教育は、家庭・学校・地域社会がそれぞれの役割を果たしつつ、バランスよく取り組むことが重要である。

学校における道徳教育を進めるに当たっては、教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに、家庭や地域社会との連携を図りながら、ボランティア活動や自然体験活動など豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。

2 学校における道徳教育の目標について（現行小学校学習指導要領「総則」より）

学校における道徳教育の目標は、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

特に、道徳教育のかなめとなる道徳の時間は、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

3 道徳の時間について

道徳の時間は、週 1 時間、年間 3 5 時間、実施している。

道徳の時間における学習の基本となる 4 つの内容が定められ、それに基づいて指導している。（内容項目の例は、次ページのとおり。）

< 内容 >

主として自分自身に関すること
主として他の人とのかかわりに関すること
主として自然や崇高なもののかかわりに関すること
主として集団や社会とのかかわりに関すること

4 各学校における道徳の時間の年間指導計画について

道徳の授業は 3 5 週（小学校第 1 学年は 3 4 週）以上にわたって行うよう計画され、児童や学校の実態に応じて内容の重点化を図っている。

資料については、文部科学省作成の読み物資料や副読本等を活用している。

「道徳の内容」

【例】第3学年及び第4学年（小学校）

1 主として自分自身に関すること

- (1) 自分でできることは自分でやり、節度のある生活をする。
- (2) よく考えて行動し、過ちは素直に改める。
- (3) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。
- (4) 正しいと思うことは、勇気をもって行う。
- (5) 正直に、明るいい心で元気よく生活する。

2 主として他の人とのかかわりに関すること

- (1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。
- (2) 相手のことを思いやり、親切にする。
- (3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。
- (4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。

3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること

- (1) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。
- (2) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。
- (3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。

4 主として集団や社会のかかわりに関すること

- (1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。
- (2) 働くことの大切さを知り、進んで働く。
- (3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。
- (4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。
- (5) 郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心をもつ。
- (6) 我が国の文化と伝統に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。

(内容項目の数一覧)

小学校低学年 (1～2年)	中学年 (3～4年)	高学年 (5～6年)	中学校全学年
15項目	18項目	22項目	23項目